

平成29年度第2回秋田県立近代美術館協議会（要旨）

日時：平成30年1月19日（金）13:30～15:00

会場：秋田県立近代美術館 研修室

出席者：会長 木村雅美 横手市教育委員会教育指導部学校教育課長
副会長 亀沢修 小坂町町史編さん室長
委員 浅野壽里 アート教室「森のおと」主宰
〃 檜尾典子 公募（イベント会社役員・司会業）
〃 佐藤稔 横手市立横手南小学校長
〃 澤谷ゆりか 秋田ふるさと村総務部総務課長
〃 澁谷和之 澁谷デザイン事務所代表
〃 松田砂織 えがおの花書道教室代表
〃 渡辺歩 秋田魁新報社文化部長
事務局 小野寺康 生涯学習課 生涯学習・学芸振興班 学芸主事
〃 仲町啓子 近代美術館 館長
〃 三浦直 〃 副館長
〃 保泉充 〃 学芸班 主任学芸主事（兼）班長
〃 柴田卓也 〃 総務班 副主幹（兼）班長
〃 佐々木賢一 〃 〃 副主幹
〃 茂木亨 〃 〃 主査
〃 西野美佳 〃 学芸班 主任学芸主事
〃 木村雅洋 〃 〃 学芸主事
〃 藤井正輝 〃 〃 〃
〃 奈良香 〃 〃 〃
〃 小林紀子 〃 〃 〃
〃 鈴木京 〃 〃 〃

<次 第>

- 1 開 会
- 2 辞令交付
- 3 館長あいさつ
- 4 会長あいさつ
- 5 協 議

(1) 平成29年度近代美術館事業の概況について

(2) 平成30年度近代美術館事業の概要について

三浦副館長が、パワーポイントを使用して(1)(2)について一括して事業等を説明

(3) (1)・(2)について一括の協議・質疑応答

- 5 閉 会

<協議概要>

■ 近代美術館のPRについて

年々入館者が減ってきており、今後も秋田県の人口減少に比例して減っていくことが予想される。

入館者を一人でも多く増やせればいいが、美術を観るといのは非常に敷居が高く感じるため、美術館に行きにくいのではないだろうか。チラシ一つにしても同様である。どうしたら身近なものと感じさせられるか、どうしたら観たいという気持ちを引き出すことができるだろうか。

- 観たいという気持ちを引き出せるような秋田に密着した展覧会の開催を計画している。チラシについてもシンプルな、お客さんの目に留まるようなデザインにし、親しみのある展覧会作りを心掛けていきたい。

秋田県全体の雰囲気は意気消沈し、アートを楽しむ意識が薄れてきている。将来が明るくなく沈んでおり、このままでは厳しい状況と考えられる。何か雰囲気を変えなければ難しいのではないか。

元気のない秋田と言われるが、外に出て秋田を見るとやはり魅力はたくさんあると気付かされる。人もいいし、食もいいし、何より日本酒が元気。例えば日本酒のラベルを展示するといった発想はお客さんに足を運んでもらえる一つのきっかけになるのではないか。

- 県内各施設軒並み集客は伸び悩んでおり、各市町村の美術館と連携して盛り上げていきたいと考えるが、人的になかなか難しい現実がある。出前美術館を実施して、美術に楽しむ機会は作っているので、今後も継続していきたい。

学校では子どもや職員の中で美術が話題になることはほとんどなく、また、美術が身近なものとして捉えられておらず、そういう意識を変えて行かなければならないと考える。ただし、以前の「魔法の美術館」は体験できる美術館として話題となったことがあり、体験を通して学ばせることが非常に重要であると考え。体験がキーワードではないか。

- 来年度やはり体験できる「チームラボ 踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地」を開催する。かつて47万人動員し、子どもはもちろん大人も楽しめるコンセプトとなっている。様々なコンテンツも盛り込まれているので期待していただきたい。一方で展覧会に関する色々な意見も寄せられているので、今後も様々なジャンルを紹介していきたい。

美術ファンのみならず、新たな客層を開拓する意味でも他分野とのコラボレーションを積極的に試みて欲しい。秋田ふるさと村との連携も必要と思われる。

- 確かにコンサートでのコラボは、短期間ではあるが効果が見られる。いかに情報を効果的に発信していくかが重要。委員の皆様には今後も協議会に限らず、アイデアを提案していただきたい。